

令和元年 6月 16日

平成 30 年度事業報告

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

I 総括

平成 30 年度の事業方針は次のとおりであった。「本協会は、わが国における登山界の統括事業を行い、これを代表する団体として安全を第一に山の環境と文化に配慮した登山、スポーツクライミング及び山岳スポーツの普及振興を図ることを活動の原点とする。」

それを基に行った主な行事や事業をまとめたものが下表である。

	JMSCA 本体/総務部	登 山 部	スポーツクライミング部
国内の動き	各種規程/規定類の改定 暴力相談窓口の開設 理事会構造改革、次期役員改選では、ブロック代表の選出は無くして全国からの推薦とする 各岳連事業及び財政状況の調査・分析を理事長会議で発表 JMSCA 公認メンバー (CLUB JMSCA ITADAKI) の推進 各岳連に法人化の推奨 創立 60 周年記念事業の準備	登山部会・会合開催、今後について 討議 「山の日」記念委託事業の推進 「青少年登山教室」委託事業の推進 那須における雪崩遭難事故を受けて安全登山研修会を国立登山研修所と共催 8 月ジュニア登山教室 in 立山 安全登山指導者研修会 (9 月埼玉、11 月沖縄) 山岳レスキュー講習/JSC 調査 各種指導員研修会 夏山リーダー制度開始の準備 岳連個人会員制度の推奨 ウィンタークライマーズミート開催	公認大会認定開始 各種規程/規則改定 選手登録システムの変更と審判ルートセッター登録システムの構築及び更新研修会の開催 クライミングジムとの連携 4 月 FISE2018 in 広島開催 6 月ワールドカップ八王子/ コンバインドジャパンカップ 国体リハーサル (大学選手権) 各種国内競技大会開催 倫理・AD 研修の推進
	対国外の動き	UIAA 理事会, 総会出席 ISMF 総会出席	UIAA 登山委員会出席 UIAA 標準指導法 (夏山リーダー制度) 海外登山奨励金登山隊の公募と選考 AAC クライマーズミート派遣 UIAA 登山ハンドブック翻訳 UIAA 医事委員会出席
	UAAA 理事会・総会出席	キルギスマウンテンスピリッド派遣	

※1 FISE エクストリームスポーツフェスティバル

※2 第 5 回全日本大学スポーツクライミング対抗選手権大会

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(以下、JMCSA「ジムスカ」)としての活動も2年目に入り、総務部、登山部、スポーツクライミング部の三部体制が整って来た。当初の予算編成においては各部に所属する委員会を中心に行い、運用も軌道に乗って来たところである。各部の実際の活動は委員会が担当する。

組織運営についても「新たな事業部両輪体制下で、各部所属委員会は横の連絡を密にし、事業を企画・立案し推進していく。」と目標を立てたがその方向に向かいつつある。ガバナンス委員会により、スポーツ団体としてのガバナンスとインテグリティ、サステナビリティの実現化が図られてきた。これらはまさに今後も継続していかなくてはならない。

関係団体との連携については、国内の上部団体であるスポーツ庁、日本スポーツ協会(JSP0)、JOC、JSC、JWGならびに国内各関連機関、団体と連携を取り協力する。

登山においては、国内山岳四団体、全国山の日協議会、関係各省庁、国立登山研修所(安全登山指導者研修会等で協力)その他民間企業と必要に応じて連携する。以上を基に登山事業及スポーツクライミング事業の推進に努める。

1. JMCSA 本体/総務部

- (1) 定款や規程/規則等が徐々に充実してきた。今後は運用状況を見ながら改定等を行っていくことになる。
- (2) 暴力相談窓口の開設を行った。
- (3) 理事会は総会に次ぐ重要な決議機関である。常務理事会は原則月1回であるが、理事会は定時が年4回と少なく、従って理事の具体的活動の機会も少ない。SC部の業務急増につき積極的に動く理事を増やしたい、ということで、次年度からは理事会構造を変更することに決定した。従来のブロック代表理事を含む体制を変更し、全国から理事・監事候補者を推薦していただき、役員選考委員会で選考して答申書を作成し、理事会に提出して総会で決定する、というものである。全国からの募集ということが根本的な改正である。
さらに理事会の回数を増やす、業務執行理事(常務理事)を減らすなど有効に機能するように積極的に取り組む。
- (4) 加盟団体規程に基づく報告義務については、各岳連(協会)あってこそそのJMCSAであるので、統括団体として財政状況の把握は必要である。さらに今後の事を考えるならば多くの岳連(協会)で法人化してほしいものである。法人化を検討することは、組織のガバナンスを考える一助になるはずである。当初は事務処理等が煩雑なようでも最終的には運営の秩序が保たれるようになる。
- (5) 前項と同様であるが、常任委員が選出され、今までのようなボランティアではなく交通費も実費負担にするつもりでいるが、どうしても遠隔地の方の金額が増えてしまい、財政を圧迫する要因にもなっている。普段活動できる常任委員選出の方法にも絡んでくる。
- (6) JMCSA 公認メンバー制度が創設され、名称は「CLUB JMCSA ITADAKI」になった。定款でいうところの正会員や賛助会員とは違う。或いは選手登録・審判ルートセッター登録とも違う。各岳連の個人会員とも違う。どちらかというところサッカー等のファンクラブである。平成31年4月から募集を開始。上手に育てていかなくてははいけない。

2. 登山部

(1) 登山部会

スポーツクライミング(SC)関連に比べ動きが緩いといわれる登山関連の活性化については、約3ヶ月に1回程度登山部の委員長を中心に集まり模索してきた。各岳連の個人会員の割合を調査し、さらに各岳連に個人会員制度を推奨していくことになった。目的の1つであった組織化にどのように繋げていくか手腕が問われることになる。

(2) 夏山リーダー制度について

登山部が活発化するためには今後この事業がさらに発展しなくてはならない。平成30年度は、次年度からの制度スタートに向けて夏山リーダー講師養成の講習会が全国展開された。この制度が全国の岳連(協会)も含めて登山部を取り巻く状況を良い方向に作用することを期待したい。

(3) 「山の日」記念事業について

この事業も今年で3年目に入る。申請は42件の開催であった。前年同時期よりは増加した。

(4) 「少年少女登山事業について」

申請が28件であり、これも昨年よりは増加した。しかし例年そうであるが、なかなか増えない。何が原因なのか調査する必要がある。

(5) 国立登山研修所との共催による新規安全登山事業について

「安全登山」の趣旨に基づいた研修内容は、登山研修所の優れた講師陣を中心に充実した内容で行われた。このような研修会並びに岳連主催の講習会等への参加でレベルを上げ、安全登山に取り組んでほしいと考える。

(6) 安全登山指導者研修会

昨年までの中高年安全登山指導者講習会の名称を変更して、対象者を広げた開催とした。名称変更の効果か東部地区開催の応募が例年より多かった。内容的にも充実して欲しいと考える。

(7) 海外登山奨励金制度の応募は、平成30年度応募が3隊で昨年の4隊より減であるが、昨年同様の成果を期待したい。

(8) キルギスに派遣して4年目になるが初めてレーニン峰頂上を踏んだ。2018年はレーニン峰初登頂90年記念の節目の年であった。

3. スポーツクライミング部

(1) 代表選手の活躍

ワールドカップをはじめ、世界選手権、世界ユース選手権、アジア競技大会、ユースオリンピック、アジア選手権などアジアや世界レベルの大会で日本代表選手のメダル獲得が相次ぎ、メディアにおいても大きく取り上げられた。

(2) 対外的な課題

着々と環境は整備されて来ているが対外的な問題も発生している。オリンピックを控え、その前年つまり2019年に日本で開催予定の大会について、特にマーケティング等の権利面でIF, NF共に相互に恩恵を被る方向で調整する必要がある。

(3) 公認大会規程が制定され、募集を開始した。既に、応募があり、実施の段階に入っている。JMCA 財政基盤の1つであり、さらに多くの公認大会の開催が望まれる。

(4) 選手登録規程の改定があり、それに基づきシステムの変更を行った。時期的に急いでいたが通知が遅れ利用者や岳連(協会)には迷惑をかけた。今後は気を付けて望みたい。A登録、B登録とあり、前者には倫理規程やADの講習受講が求められて

いる。このことで受講希望者の日程調整が必ずしもうまくいかず全国から問い合わせが相次ぐ状況が生じた。

- (5) 審判・ルートセッター登録運用に関してはだいぶ前から批判の対象であった。前項の失敗を繰り返さないためにも十分なシステム構築を行うように準備を重ねてきた。しかし、元々のシステムの複雑さを乗り越えられるためには後1~2年程度必要である。岳連主体を個人主体に切り替えようとしたが、岳連の関与は言うまでもなく必要であり、運営をうまく図っていくことが求められる。
- (6) 選手登録事業、若手選手発掘、共同事業提携先等として、積極的にクライミングジムとの連携を図っている。前述の「CLUB JMCSA ITADAKI」もその一例である。

II. 事業の概況

1. 組織・会員状況

昨年に引き続き、規程類は見直しの上、改定している。スポーツクライミング部に普及委員会を新規に設置し、JMCSA メンバー規程(CLUB JMCSA ITADAKI)を作成した。さらに選手登録、審判・ルートセッター登録も岳連経由でなく個人で行う方法に変更した。しかしながら当然岳連(協会)の関与は必須である。特筆すべきは理事候補者の選考過程が変更になったことである。これは本協会の基幹をなすものであり、公益法人としてガバナンスの強化及びコンプライアンスの徹底を図らなくてはならない。その他諸規程の整備を行い、順次HPにアップして公開した。

会員の状況は以下の通りである。

- | | | |
|------------|------|----------------------|
| ① 正会員 | 60名 | (加盟団体 48名、学識経験者 12名) |
| ② 賛助会員(団体) | 11名 | |
| ③ 賛助会員(個人) | 126名 | (前年比 16名減、新規加入 1名) |

2. 財政

今期の経常収益合計は、519,085千円となった。その主な内訳は、受取会費 13,000千円、共済会委託事業収入 40,000千円、登録料 11,506千円、参加者負担金 9,346千円、協賛金 200,657千円、受取補助金等 163,578千円、受取寄附金 6,650千円である。

経常費用合計は、502,612千円で、事業費の総額は 477,661千円、その主な内訳は、選手派遣等の旅費交通費 140,885千円、印刷製本費 14,882千円、賃借・リース料 34,220千円、諸謝金 21,114千円、大会施設費用 139,942千円、支払負担金 17,806千円、管理費の総額は 24,951千円である。

その結果、経常増減額(収支差額)は、16,474千円の黒字となった。このうち、公益会計全般では 3,036千円の黒字、法人会計で 13,438千円の黒字である。

JOCからの選手強化助成金は、選手強化、国際審判員資格取得補助など増額(前年比約1.3倍)ではあるが、十分に使い切っていない。スポーツ庁からはIF役員獲得委託金Aランクもあり、補助金増額の一役を担っている。今後は計画的な選手強化事業を企画して、予算を執行していかないと次年度の助成金額に影響を及ぼすことになる。JSCからの助成金は事業や大会費用も前年比較で大幅増額であった。個々の大会の予算以上の支出増加、新たな大会の追加など支出も大幅な増額であった。予算補正も行い、支出抑制にも努めたが、今年度も協賛金や助成金に助けられており、同じく計画的な運用が求められる。支出ではSC部の予算超過、登山部の予算比未達があり、両輪の計画的健全な運用が課題となっている。予算執

行に関しては予算管理規程に則り、適正に行うべく努力したが、結果は十分ではなく今後改善していきたい。

なお、公益会計が黒字になったことについては、内閣府に対しての報告時に、赤字が見込まれている 2019 年度の IFSC 世界選手権予算に充当することを突く加える。

以上

個別事業の報告

Ⅲ. 事業内容

1. 安全登山普及事業（網掛けは JSC 補助事業）

当協会における安全登山普及とは、とりもなおさず、特に普及、指導、遭対を中心とした登山部の活動を積極的に行い、山岳における事故を未然に防ぐことにある。平成 30 年度は前年 3 月の栃木県高体連の雪崩事故に関し、全国的に大きな関心が持たれ、スポーツ庁はじめ関係諸団体が積極的に啓発活動を行い当協会も積極的に役割を担ったが、さらに国立登山研修所と共催で新規に安全登山啓発事業を行う事になった。登山部会も積極的に開催し、横の連絡を密にしている。

以下に述べる個々の活動を通じて、事故を未然に防ぐような事業を行っているが、さら

にもっと現場に突っ込んだ行動を行わなくてはいけない。海外登山奨励事業に関しては、今

期は昨年より応募が少なかった。

(1) 青少年育成事業(登山普及委員会)

ア) 高体連登山部関連

選手登録は 7787(そのうち 26 名未入金)名になっている。

①第 62 回全国高等学校登山大会の開催 8/3(金)～6(月)

三重県菰野町 鈴鹿山系一帯

47 都道府県より男女各選手 4 名、監督 1 名の総勢 470 名、スタッフ役員 300 名の 770 名参加

して開催した。WBGT 指数が 28 を超え警報音が鳴った。男子優勝校:広島、女子優勝校は

山口であった。熱中症者は 1 人もいなかった。

②第9回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会の開催

12/22(土)～23(日) 埼玉県加須市市民体育館

男子111、女子84名の参加があった。

イ) ジュニア登山教室

①「少年少女登山教室」の開催(委託実施)

「未実施の各都道府県山岳連盟(協会)への積極的な取り組みをお願いしたい」との依頼を

年度初めに行った。結果として28連盟(協会)で開催した。

②「登山普及情報交換会」開催

平成31年2/16(土) BumB ぶんぶ(東京スポーツ会館) 江東区夢の島 参加者23名

③「みんな集まれ!ジュニア登山教室 in 立山 2018」

8/19(日)～22(水) 国立立山青少年自然の家、立山周辺

参加者は19名、スタッフはJMSCA6名、富山岳連等8名

④「みんな集まれ!なすかし雪遊び隊 2019」開催

3/29(金)～31(日) 国立那須甲子青少年自然の家

参加者10名、スタッフ6名であった。

(2) 登山に関する文化・学術の振興事業(普及、総務委員会)

ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

イ) 登山に関する情報・資料の収集

ウ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

・文部科学大臣顕彰・表彰

平成29年度に世界的規模のスポーツ競技会で優秀な成績を収めた選手及び指導者の顕彰

谷井菜月、伊藤ふたば、森秋彩、川又玲瑛、田中修太、檜崎明智、緒方良行の各選手

西谷善子コーチ

・平成30年度実施各競技大会入賞者(1位～3位)表彰

・第57回全日本登山大会功労者特別表彰(10回以上の参加者)

齋藤長作氏、下荒瀬しげ子氏、小熊幸雄氏(以上群馬)、

菅田静子氏(富山)、伊藤恵美子氏(山口)

・平成30年度永年参与感謝状贈呈

西田六助氏(愛媛)

・平成30年度功労者特別表彰(31年新春懇談会時)

<登山部門>

大滝潤二氏(山形)、喜内敏夫氏(栃木)、角田二三男氏(群馬)、中村久住氏(大阪)、京才昭(広島)

下田泰義氏(長崎)、古里亜夫氏(宮崎)

<スポーツライミング部門>

野口啓代(18回アジア大会コンバインド優勝)、原田海(世界選手権ボルダリング優勝)

土肥圭太(YOG コンバインド優勝)、谷井菜月(世界ユース、ユース B 2 冠)

- ・第9回日本山岳グランプリの公募と顕彰

馬目弘仁氏(長野)に贈呈

- ・平成30年度各種スポーツ賞表彰候補者の推薦

原田海選手が第68回日本スポーツ賞の最優秀賞を受賞。

- ・平成30年度日本スポーツ協会公認スポーツ指導者表彰

傘木靖氏(長野)、中庭稔氏(茨城)

- ・平成30年度自然公園指導員功労者表彰者

須田久男氏(群馬)

- エ) 平成30年度海外登山隊奨励金の公募と選考

THAMSERKU EXPEDITION 2018

GIRIGIRI BOYS PATAGONIA EXP.2019

日本カーメン峰登山隊 2019

- オ) 各種登山・山岳スポーツ大会等の後援

昭和飛行機スピードスターズ競技会後援

山岳検定協会後援

大阪チャレンジ登山後援

日本ガイド協会公開講座後援

登山医学会認定国際山岳医講習会後援

安全登山研修講習共催承認

北丹沢山岳耐久レース後援

HAT-J 奥多摩交流「子ども自然体験キャンプ」後援

高麗神社 第3回高麗郡偉人伝田部井淳子回顧展後援

第3回全国「山の日」フォーラム後援

山梨岳連「山岳遭難シンポジウム」共催承認

加須ライミングカップ後援

第12回生駒チャレンジ登山大会後援

第18回ライチョウ会議後援

第26回耐久レース後援

第 27 回広島比婆山国際スカイライン後援

広島山岳辺境・文化セミナー後援

王子ヶ岳清掃登山後援

カ) 日本山岳文化学会等と連携・協力

(3) 安全登山の啓発事業(登山普及、遭対、国際の各委員会)

登山普及委員会

ア) 安全登山指導者研修会 (国立登山研修所他共催) の実施

① 東部地区 (埼玉・金勝山周辺) 9/15 (土) ~17 (祝月)

主催者: 登山研修所 2 名、JMSCA2 名、講師・実技講師: 14 名、

一般参加者: 58 名、計 76 名にて開催

② 西部地区 (沖縄・名護岳周辺) 11/17 (土) ~19 (月)

主催者: 登山研修所 2 名、JMSCA2 名、講師・実技講師(含、補助): 19

名、本

部役員: 5 名、一般参加者: 24 名、計 52 名にて開催

イ) 新規安全登山事業(国立登山研修所と共催)

① 高等学校登山指導者夏山研修会

6/29(金)~7/1(日) 3日間、国立登山研修所及び周辺

募集 30 名、参加者 18 名にて開催

② 安全登山講師研修会

6/9(土)~10(日) 2日間、国立登山研修所

募集 30 名、参加者 26 名にて開催

③ 安全登山サテライトセミナー

東京会場: 7/21(土)~22(日) オリンピック記念青少年総合センター

募集 100 名、参加者 168 名にて開催

名古屋会場: 11/3(土祝)~4(日) 名古屋工業大学

募集 100 名、参加者 320 名にて開催

大阪会場: 12/1(土)~2(日) モンベル本社 ANNEX 店

募集 100 名、参加者 181 名にて開催

④ 積雪期基礎講習会

2/9(土)~11(月祝)、国立登山研修所及び周辺

主催者: 登山研 3 名+助手 2 名、本部: 主任講師 1 名、副主任講師 2 名

実技・講義講師 2 名(飯田肇氏、猪熊隆之氏)、実技講師: 7 名、参加者: 31

名

ウ) 第 57 回全日本登山大会の開催

6/16 (土) ~18 (月) 京都、東山、北山、西山「京都一周トレイル」

1 日目シンポジウム 850 名参加、2 日目京都 1 周トレイル 770 名参加

都市型の大会という事で新しい試みであったが、多くの方にご参加頂き、今後の方向に

ついて一石を投じた。

エ) 「山の日」記念「ふるさとの山を登ろう」事業の開催

各都道府県山岳連盟(協会)が主管して実施

42連盟(協会)の申請があった。

遭対委員会

ア) 山岳レスキュー講習会

① 東部地区(富山県・国立登山研修所) 8/31(金)～9/2(日)

縦走ハイキング(定員15名)、クライミングA(定員6名)、B(同10名)、C(同8名)で開催された。

② 西部地区(群馬県・土合山の家) 1/25(金)～27(日)

クラス1 16名受講(定員16名)

クラス2 15名受講(定員16名) キャンセル1名

クラス3 12名受講(定員12名)

合計43名受講(定員44名) 講師スタッフ合計20名。

イ) 研修及び研究会

① 遭対常任研修会の開催

② 全国遭難対策委員長会議・研修会 6/23(土)～24(日)、海員会館(晴

海)

ココヘリ、夏山リーダー制度、雪崩事故後の高体連登山活動と今後、などが主な討議

であった。

ウ) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査

エ) 平成30年度全国山岳遭難対策協議会の共催(スポーツ庁他) 7/11(水) 東京

文科省ビル3Fにて開催、参加者約250名

オ) 山岳保険加入者の事故調査(報告書作成/HP掲載)

カ) 遭難事故の調査研究

・ 遭難事故に関する調査研究(委託事業)

・ 遭難事故の科学的分析

キ) 遭難事故科学的研究支援

・ IMSAR 研究助成支援(継続)

※ココヘリについて(共済会事業)

JMSCAの山岳共済会会員は、入会金3,000円が無料で、年会費3,650円のみで加入できる。JMSCA山岳共済会会

員にはJMSCAロゴが入った発信機が貸与される。(ココヘリは個人の契約になり、

また貸し
は禁止。)

国際委員会

- ア) 国際委員総会兼第 57 回海外登山技術研究会
6/23 (土) ~24 (日) 栃木県青年会館コンセーレ(宇都宮市)
総会参加 18 名、技術研究会参加 67 名
- イ) 大宮求さんお別れ会 8/7(火)アルカディア市ヶ谷
参加者は 86 名、山学同志会 OB も多数参加した。
- ウ) 海外登山懇談会開催
11/15 (木) 国立オリンピック記念青少年総合センター
有料参加者 12 名、合計 27 名参加
- エ) 支援事業
ウィンター・クライマーズ・ミート (国内) の支援
平成 31 年 3/8 (金) ~10 (日) 滝谷 22 名の参加

(4) 登山指導者育成事業(指導委員会)

- ア) 指導者研修会
 - ① 氷雪技術研修会 (A 級主任検定員・上級指導員養成講習会)
4/28 (土) ~29 (日) 富士山
研修 13 名、A 級主任 5 名、上級指導員 17 名、講師・スタッフを入れて総勢 48 名の参加。
 - ② 指導委員長研修・委員全体会議
6/2 (土) ~ 3 (日) 東京海員会館
37 都道府県、54 名の参加があった。新指導者制度や夏山リーダーについてなど研修、討論が行われた。
 - ③ 登攀技術研修会 (A 級主任検定員・上級指導員養成講習会)
10/27~28 日 研修会 4 名、A 級 6 名、上級 8 名参加 愛知県山岳連盟
 - ④ 氷雪技術常任委員研修会 (予定)
3/16 (土) ~17 (日) 群馬県・谷川岳
 - ⑤ 氷雪技術研修会 (A 級主任検定員・上級指導員養成講習会)
平成 31 年 2/16 (土) ~17 (日) 大山
参加者：研修 5 名、A 級主任検定 4 名、上級指導員養成講習 2 名、講師 5 名、スタッフ 4 名、
計 20 名
 - ⑥ SC 指導員及び上級指導員養成講習会
SC 指導員：広島、兵庫、千葉、神奈川、鹿児島で実施

SC 上級指導員：神奈川、東京で実施

⑦SC 上級コーチは 6/29～7/1 に開催され 7 人が専門科目合格。

⑧SC コーチは 6/15～17、7/6～8 日、1/20 日に開催 45 名が専門科目合格。

⑨公認山岳指導員及び上級指導員の養成

⑩指導・遭対委合同研修会 8/18（土）～19（日）神奈川県山岳スポーツセンタ

一 夏山リー

ダー講師養成講習会を開催

受講者：36 名 指導委員会：8 名 遭対委員会：17 名 合計 61 名

イ) 主任検定員養成講習会

・SC 主任検定員養成講習会 12/8（土） 4 名参加

・山岳主任検定員養成講習会 富士山 6 名 大山 4 名

ウ) 夏山リーダー講習会について

3/16(土), 17(日)に神奈川県山岳スポーツセンターで第 2 回講師養成講習会の開催

受講者：34 名 指導委員会 9 名 遭対委員会：11 名 合計 54 名

エ) 委員会等

①夏山リーダー講習会の試験実施

千葉において開催され、

6/9 机上講習 受講者 10 名

6/9～7/1 実技 10 名

②指導常任委員会 毎月第 1 月曜日

オ) 国立登山研修所事業への協力

2. スポーツクライミング事業

平成 30 年度においては以下に記録されるようにトップクライマーにおいては多くの成果

があった。若い力も順当に伸びてきている。国内の競技大会も数多く開催され、充実した運

営を図れるようになったが、まだまだ予算オーバーが多い。予算作成時の考えを生かし慎重

な運営が望まれる。SC 医科学委員会、AD 委員会も各大会をサポートし、積極的に貢献して

いる。

公認大会の制度も整い、申請が出てくるようになった。地方レベルでの大会や次代を担う普及レベルでの浸透に一役買ってほしい。

選手登録の方法を変更したが、通知が遅れ各岳連（協会）には迷惑をかけてし

まった。審判・ルートセッターも個人で登録する方向にする方向で進んでいる。しかし従来の登録データベースの確認がまだ不十分だったり、岳連（協会）との連携の問題もあり、スムーズにはいっているとは言い難い。移行期ということもあり、これも慎重に運びたい。

また、選手登録の A 級登録の件に関しては、必要な講習会を受講するようになるが、講師の数の不足もあり、スケジュールの件では多くの問い合わせをいただいた。

前述の JMSCA メンバー(CLUB JMSCA ITADAKI)の創設、クライミング普及委員会発足など足固めはしっかりと行いたい。

今年度は一つ一つの大会規模も大きくなり、IFSC 総会を開催したりしており、特に JSC からの助成金が多くなっている。JOC 助成金も増額になった。

(1) 競技会運営事業(競技委員会)

SC 部全国競技委員長会議の開催 4/1(日)

ア)競技会・研修会の開催

①FISE WORLD SERIES Hiroshima 2018(エクストリームスポーツ国際フェスティバル)

4/6(金)~8(日) 広島市・旧市民球場跡地

アーバンスポーツの国際大会であり、21 年前にフランスで始まったもの。スケートボードや

自転車 BMX などと共にボルダリング部門で参加した。結果は男子 1 位 檜崎明智、2 位 田

中修太、3 位 土肥圭太 女子 2 位 谷井菜月、3 位 小武芽生 であった。

②第 4 回ボルダリング・ユース日本選手権鳥取大会 2018

5/19 (土) ~20 (日) 鳥取県倉吉体育文化会館

全国から 326 名の選手が参加、これまでの最大であった。1 位のみの記録は男子 ジュニア 檜崎明智、ユース A 小西桂、ユース B 川又玲瑛、ユース C 犬竹那月

女子 ジュニア 中村真緒、ユース A 菊地咲希、ユース B 森秋彩、ユース C 小池はな

③IFSC クライミングワールドカップ八王子大会 2018

6/2(土)~6/3 (日) 八王子市・エスフォルタアリーナ八王子

27 ヶ国男子 91,女子 68 名の参加、来場者は 2 日 1140 人、3 日 2453 人

日本人成績：男子 2 位 檜崎智亜、3 位 杉本怜 女子 1 位 野口啓代 3 位 野中生
萌

④スポーツクライミング第 1 回コンバインド ジャパンカップ

6/23(土)~24 岩手県営運動公園

日本で初めてのコンバインド公式大会でメディア 23 日は 84 名、24 日は 96 名来

場

男子 1 位: 檜崎智亜 2 位 檜崎明智 3 位 緒方良行

女史 1 位: 野口啓代 2 位 伊藤ふたば 3 位 野中生萌

⑤スポーツクライミング第 21 回 JOC ジュニアオリンピックカップ

8/11 (土) ~13 (月) 富山県南砺市桜ヶ池クライミングセンター

参加者合計 男子 121 名、女子 86 名 来場者 11 日 476 人、12 日 476 人、13 日 2

60 人

世界ユース、ロシア開催が重なり、上位選手の不参加があったが、選手層の厚さがそれ

をカバーした。初めて WBGT での管理を行った。

<男子> ジュニア 本間大晴、ユース A 大政涼、ユース B 吉田智音、ユース C

安楽宙斗

<女子> ジュニア 西田朱李、ユース A 平野夏海、ユース B 美谷島ももか、ユース C 小

池はな

池はな

⑥IFSC ACC クライミング・アジア選手権鳥取 2018 開催

11/7(水)~11(日) 鳥取県倉吉市・倉吉体育文化会館、倉吉スポーツクライミングセンター

14 ケ国と地域から選手 117 人 (男子 68 人、女子 49 人) 出場

入場者：7 日 898 人、8 日 437 人、9 日 670 人、10 日 1,596 人、11 日 1,596 人

ボルダリング、リードは日本がメダルを独占。金メダル 5 個を含む 15 個のメダルを獲得。

<男子コンバインド>

1 位・檜崎明智、2 位・杉本怜、3 位・PAN Yu Fei(CHN)、4 位・藤井快

<女子コンバインド>

1 位・野口啓代、2 位・野中生萌、3 位・伊藤ふたば

⑦第 9 回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会 (「青少年育成事業」の項参照)

12/22(土)~23(日) 埼玉県加須市民体育館

⑧スポーツクライミング第 14 回ボルダリングジャパンカップ

2019年1/26(土)～27(日) 駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場

男子72名、女子50名参加 観戦者：26日786人、27日1,679人

<男子>

1位：石松大晟 (Base Camp) ※初優勝、2位：檜崎智亜 (TEAM au)、3位：土肥圭太 (神奈川県立平塚中等教育学校)

<女子>

1位：野中生萌 (XFLAG) ※初優勝、2位：野口啓代 (TEAM au)、3位：伊藤ふたば (TEAM au)

⑨スポーツクライミング第1回スピードジャパンカップ

2/10(日) 昭島市・モリパークアウトドアビレッジ、男子39名、女子24名参加

<男子>

1位：池田雄大 (千葉県山岳連盟)、2位：藤井快 (TEAM au)、3位：抜井亮瑛 (香芝市立香芝北中学校)

<女子>

1位：野中生萌 (XFLAG)、2位：伊藤ふたば (TEAM au)、3位：野口啓代 (TEAM au)

⑩スポーツクライミング第32回 リードジャパンカップ 2019

3/2(土)～3(日) 千葉県印西市・松山下公園総合体育館

<男子> 1位：藤井快 (TEAM au) ※初優勝 2位：檜崎 智亜 (TEAM au)
3位：清水裕登 (愛媛県山岳連盟)

<女子> 1位：野口啓代 (TEAM au) 2位：森秋彩 (つくば市立手代木中学校)
3位：平野夏海 (私立国士舘高等学校)

⑪スポーツクライミングリードユース日本選手権印西 2019

3/23(土)～25(月) 千葉県印西市・松山下公園総合体育館

◆出場選手カテゴリー

男子ジュニア (2000年、2001年生まれ)、女子ジュニア (2000年、2001年生まれ)

男子ユースA (2002年、2003年生まれ)、女子ユースA (2002年、2003年生まれ)

男子ユースB (2004年、2005年生まれ)、女子ユースB (2004年、2005年生まれ)

男子ユースC (2006年、2007年生まれ)、女子ユースC (2006年、2007年生まれ)

◆決勝結果

<男子ジュニア>

1位：田中修太 (新潟県立直江津中等教育学校) 2位：小西桂 (私立慶應義塾高等学校) 3位：山口龍磨 (東京都立砂川高等学校)

<女子ジュニア>

1位：樋口結花 (佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟) 2位：倉菜々

子（私

立安城学園高等学校） 3位：中村真緒（青山学院大学）

<男子ユースA>

1位：百合草碧皇（埼玉県山岳連盟） 2位：鶴隼斗（埼玉県山岳連盟）

3位：大

政涼（愛媛県立東温高等学校）

<女子ユースA>

1位：森秋彩（つくば市立手代木中学校） 2位：平野夏海（私立国士舘

高等学校）

3位：工藤花（山形市立第四中）

<男子ユースB>

1位：吉田智音（奈良県立青翔中学校） 2位：田中裕也（岐阜県山岳連盟）

3位：村下善乙（千葉県山岳連盟）

<女子ユースB>

1位：小池はな（埼玉県山岳連盟） 2位：森奈央（三重県山岳連盟）

3位：美谷島ももか（私立日本大学中学校）

<男子ユースC>

1位：小俣史温（東京都山岳連盟） 2位：安楽宙斗（千葉県山岳連盟）

3位：通谷律（佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟）

<女子ユースC>

1位：抜井美緒（奈良県山岳連盟） 2位：小田穂香（大阪府山岳連盟）

3位：妻嶋心路（無所属）

（2）国体山岳競技の主管（国体委員会）

五輪競技種目化に沿った国体山岳競技の検討を行っている。

【国体ブロック大会】は以下の日程で行われた。（下記⑤である。）

北海道 8/4-5 東北 宮城県 7/27-29 関東 茨城県 7/28-29

北信越 新潟県 7/21-22 東海 岐阜県 7/14-15 近畿 和歌山県 7/28-29

中国 山口県 7/21-22 四国 高知県 7/21-22 九州 鹿児島県 7/14-15

① 4/21（土）～22（日）第73回福井国体第1回基準会議、福井県池田町

② 6/1（金）～3（日）第73回福井国体第2回基準会議、福井県池田町

③ 6/2（土）～6/3（日）第73回福井国体リハーサル大会（第5回日本学生スポー

ツクライミン

グ（L/B）対抗選手権大会）福井県池田町

従来のLJCから変更した記念すべき大会となった。合計72名の参加でリード及びボルダリ

ング競技が行われ、男子は立教大学、女子は明治大学が優勝した。

④ 9/9（日） 組合せ抽選会 岸記念体育会館

- ⑤ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催（委託実施）
- ⑥ 10/5（金）～10/7（日） 第73回福井国体山岳競技開催、福井県池田町
- ⑦ 第73回福井国体以降の開催県への指導
- ⑧ 規程改廃が理事会マターであった国体山岳競技規程を常務理事会マターの規定に変更した。

⑨ 競技ルールについて IFSC に準拠するべく検討。

⑩ ブロック研修会の開催 11月～3月 全国9ブロック
 北海道 2/24、審判講習なし 東北 11/24-25 関東・近畿 1/19-20 中国

12/8-9

四国 12/1-2 九州 2/23-24 北信越 12/15-16 東海 2/2-3

(3) 強化事業(強化委員会)

ア) 日本代表選手選考・派遣

①代表選手の選考

イ) 代表選手の派遣

①IFSC クライミング WC

4月～11月 世界各地

ボルダリング WC 年間ランキング

<男子>

2位 檜崎智垂 3位 杉本怜

<女子>

優勝 野中生萌 2位 野口啓代

②第18回アジア競技大会

8月18日～9月2日、ジャカルタ・バレンバン

<コンバインド男子>

銀メダル：藤井快 (TEAM au)：スピード5位、ボルダリング3位、リード

1位

銅メダル：檜崎智垂 (TEAM au)：スピード4位、ボルダリング2位、リード

2位

<コンバインド女子>

金メダル：野口啓代 (TEAM au)：スピード6位、ボルダリング1位、リード

2位

4位：伊藤ふたば (TEAM au)：スピード4位、ボルダリング2位、リード

4位

③世界選手権

9月6日(木)～16日(日) インスブルック

<男子コンバインド>

4位：原田海（神奈川県立神奈川大学）60.00ポイント；スピード4位、ボルダリング5位、リード3位
5位：檜崎智亜（TEAM au）72.00ポイント；スピード6位、ボルダリング3位、リード4位
6位：藤井快（TEAM au）90.00ポイント；スピード3位ボルダリング6位、リード5位

<女子コンバインド>

4位：野口啓代（TEAM au）54.00ポイント；スピード6位、ボルダリング3位、リード3位
5位：野中生萌（TEAM au）64.00ポイント；スピード4位、ボルダリング4位、リード4位

<男子ボルダリング>

1位：原田海（神奈川県立神奈川大学）2016年世界選手権優勝の檜崎智亜に続いて日本人2連覇

4位：渡部桂太（住友電装）

5位：藤井快（TEAM au）

<女子ボルダリング>

2位：野口啓代（TEAM au）

5位：野中生萌（TEAM au）

④世界ユース選手権

8/7(火)～19(日)（モスクワ）

<男子ユースAリード>

1位：西田秀聖（私立天理高等学校）

3位：小西桂（私立慶應義塾高等学校）

<女子ユースAリード>

2位：伊藤ふたば（TEAM au）

<男子ユースBリード>

3位：前田健太郎（滋賀県立草津高等学校）

<女子ユースBリード>

1位：谷井菜月（檀原市立光陽中学校）

6位：工藤花（山形市立第四中学校）

<男子ジュニアリード>

1位：檜崎明智（TEAM au）

3位：原田海（神奈川県立神奈川大学）

<女子ジュニアリード>

8位：森脇ほの佳（羽衣国際大学）

<男子ジュニアスピード>

21位：檜崎明智（TEAM au）

<女子ジュニアスピード>

22位：中村真緒（青山学院大学） ※PB更新（12"21→11"82）

<男子ユースAボルダリング>

5位：小西桂（私立慶應義塾高等学校）

<女子ユースAボルダリング>

3位：伊藤ふたば（TEAM au）

<男子ジュニアボルダリング>

1位：檜崎明智（TEAM au）

- 3位：原田海（神奈川県立神奈川大学）
- <女子ジュニアボルダリング>
- 4位：中村 真緒（青山学院大学）
- <男子ユースBボルダリング>
- 1位：川又玲瑛（栃木県宇都宮市立瑞穂野中学校）
- 3位：抜井亮瑛（奈良県香芝市立香芝北中学校）
- <女子ユースBボルダリング>
- 1位：谷井菜月（橿原市立光陽中学校）

⑤第3回ユースオリンピック競技大会

10/6（土）～18（日） アルゼンチン・ブエノスアイレス

<コンバインド男子決勝>

- 1位：土肥圭太（平塚中等教育学校）；スピード2位、ボルダリング1位、リード3位
- 2位：田中修太（新潟県立直江津中等教育学校）；スピード6位、ボルダリング3位、リード1位

<コンバインド女子決勝>

- 6位：中村真緒（青山学院大学）；スピード5位、ボルダリング2位、リード6位

ウ) 代表選手強化合宿（海外・国内）

エ) ユース選手・指導者講習会の開催

オ) ジュニア・クライマー実態調査に基づく選手、指導者、保護者へのスポーツ障害
予防啓発(医

科学支援)

カ) 複合種目(リード、ボルダリング、スピード)への取り組み

キ) 選手の心身面の強化に対する取り組み

ク) 競技者育成プログラムの作成と関連事業の検討

(4) 審判・ルートセッター事業

各種競技会・国体体山岳競技への支援協力 ルートセッター派遣、ブロック別研修会
講師派遣

ア) 審判・セッター会議の開催（セッター会議 2月、審判会議 3月）

イ) 資格認定研修会

①ルートセッター研修会

- ・第1回：8/14（火）～16（木） 富山県南砺市桜ヶ池 cc 参加者 4名
- ・第2回：12/24（月）～26（水） 埼玉県加須市民体育館 参加者 7名

②C級審判員認定研修会

- ・神奈川特別（8月）参加者 7名
- ・東京特別（11月）参加者 15名
- ・各ブロック研修会での実施 参加者 計 77名

ウ) 資格認定状況

①資格審査会（9月）提出分

C級セッター認定 4名

B級審判員昇格 2名

C審判員認定 5名

②資格審査会(3月)提出分

B級セッター昇格 1名

C級セッター認定 5名

一般セッター認定 2名

A級審判員昇格 2名

B級審判員昇格 3名

C審判員認定 69名

(5) ドーピング防止事業(アンチドーピング委員会)

ア) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など

①ドーピング検査実施(JADAに委託)

②ドーピング防止講習会開催

東京:12/16、1/26、2/9、3/30(予定)、埼玉:12/22、京都:12/8

③TUE(治療目的使用に関わる除外措置)申請の支援

④ADAMS(アンチ・ドーピング管理システム)登録選手への管理支援

⑤JADA主催の講習会に積極参加

(6) IFSC 総会の国内開催

3/16(土)に品川プリンスホテルにて開催、先立つ14日(木)、15日(金)はACC(アジアアカウンシ

ル)、NFワークショップ、総会前ミーティングなどが開催された。ACCは13か国が出席

した。総会には国と地域、37か国122名が出席した。

3. 登山関連・競技会運営事業

(1) 山岳スキー、スカイ/トレラン普及・振興

①第12回山岳スキー競技日本選手権大会

4/14(土)~15(日) 小谷村梅池高原スキー場

参加申込者61名、出走者58名、完走者57名

②ISMF(国際山岳スキー連盟)総会

6/15~16 松澤委員派遣、19ヶ国参加、オリンピック種目化の議論中心。

③一般財団法人日本トレイルランニング協会、日本スカイランニング協会、日本トレイルラ

ンナーズ協会への協力とトレラン調査継続

4. 登山研究調査事業

海外との人脈の交流は相変わらず行っているが、体制等含めて活発化したい。医学科学では

スポーツライミングのおかげで AT(アスレチックトレーナー)や SD(スポーツドクター)の受講希望者が増えた。この流れは今後も継続すると思われる。自然保護活動については従来通りである。AD(アンチドーピング)に関しては、今後益々重要であり、これからも力を入れていかななくてはならない。

(1) 国際交流事業(国際委員会)

ア) 国際交流

訪日する外国登山代表団との交流

イ) 派遣他

- ① キルギスマウンテンスピリッド派遣、
7/27～8/14、波多腰耕弥がレーニン峰登頂
- ② AAC クライマーズミート派遣
10/7～14、ヨセミテ、石川貴大
- ③ BMC クライマーズミート派遣(来年度5月)
門野巧昂、草間麻子を派遣予定

(2) 医・科学支援事業(登山部医科学委員会)

ア) JSPO 公認 SD(スポーツドクター)養成支援 (受講希望者の推薦及 SD 代表者協議会への出席) 及び AT(アスレチックトレーナー)養成支援 (受講希望者推薦及 AT 代表者協議会への出席)

イ) UIAA MedCom

- ① UIAA MedCom Meeting への出席

ウ) JMCSA が支援している医科学的諸事業

- ① 国際認定山岳医研修会
- ② 日本登山医学会認定山岳医研修会
- ③ NPO 富士山測候所を活用する会
- ④ JSMM 登山者検診ネットワーク
- ⑤ 日本登山医学会ファーストエイド講習会

エ) 調査研究事業

- ① トレラン大会の安全基準作成のための調査研究
- ② 医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査

5. 自然保護研究調査事業

(1) 山岳環境保全事業(自然保護委員会)

ア) 研修及び研究会

- ①平成 30 年度自然保護委員総会（第 42 回山岳自然の集い中央大会）
11/23（金）～25（日） 埼玉県比企郡 小川げんき村 参加者 75 名
- ②常任委員研修会
7/15（日） 22 名参加
- ③第 7 回自然保護指導員研修会
1/27（日）、国立オリンピック記念青少年総合センター、参加者 53 名
- ④ 第 8 回関東ブロック自然保護交流会
8/25（土）～26（日） 雲取山 5 都県から 26 名参加

イ) 自然保護の啓発

- ①自然保護指導員制度の推進
- ②全国環境月間(6 月)の実施
- ③環境省・自然公園指導員制度への協力
 - ・自然公園指導員の推薦
- ④山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進
 - ・山岳団体自然環境連絡会への参加
 - ・山の野生鳥獣目撃レポート・プロジェクトの推進
 - ・各種環境保護事業の後援と派遣
- ⑤ JOC 主催「スポーツと環境会議」への参加・協力

6. 共益事業

本協会の顔ともいえる機関誌『登山月報』は、第 3 種郵便扱いの定期刊行物であるが、原稿の集まりが悪く毎月余裕のない編集に追われている。今年度から創立 60 周年を 2 年後に控え、各岳連（協会）の OB の方々から思い出の原稿を頂き掲載している。HP は徐々にではあるが以前よりは充実してきた。しかしまだまだ素早い対応が求められ、課題は常に残っている。英文 HP も話題に上るが遅々として進んでいない。IFSC 関係の国際会議が増えてきた。今年度 3 月には東京で総会を開催した。ガバナンス委員会による規程等の整備が順調に行われた。また、予算執行に関する管掌については少しずつ動いてはいるが、まだ道半ばである。

(1) 広報等

- ア) 『登山月報』毎月 15 日定期発行 第 589 号（4 月号）～第 600 号（3 月号）
- イ) HP の更新作成 (<http://www.jma-sangaku.or.jp>)
- ウ) SNS の活用について

①英文コーナーの新設予定

(2) 会議等

ア) 総会 6/10 (日)

イ) 理事会 第1回 5/26 (土)

第2回 6/10 (日) (総会終了後)

臨時 9/8 (土)

第3回 11/4 (日)

第4回 31年3/2 (土)

ウ) 全国理事長会議 31年2/17 (日)

エ) 全国参与会 6/16 (土) 京都 (第57回全日本登山大会開催時)

オ) 顧問・参与会 31年1/12 (土) 東京・アルカディア市ヶ谷 (新春懇談会開催時)

カ) 常務理事会 定例会毎月第2木曜日開催 (原則) 年12回開催予定

毎月常務理事会の前に三役会議を開催

キ) 専門委員会委員長会議 11/12 (月) 開催

ク) 専門委員会常任委員会 毎月1回以上開催

ケ) 事務局会議 (随時)

コ) 新春懇談会 31年1/12 (土) アルカディア市ヶ谷

サ) 山岳4団体懇談会 7/10 (火) 18:30~新宿中村屋 以下5名参加

顧問 神崎忠男、会長 八木原罔明、副会長 平山ユージ

専務理事 尾形好雄 常務理事・事務局長 小野寺 斉

シ) (一財)全国山の日協議会

・第3回全国「山の日」フォーラム開催 (6/9~10、秋葉原 UDX ビル)

・第3回「山の日」記念全国大会 8/11 (金・祝) 鳥取県大山町

伊藤副会長、尾形専務理事

・理事会・評議員会 (5/31、弘済会館)

・理事会 (12/6、弘済会館)

・運営委員会 (9/7・四谷健康保険センター、12/6・弘済会館)

ス) 国際会議

① 国際山岳連盟 (UIAA) 総会 10/6(土)~10(水) モンゴル

小野寺常務理事

② アジア山岳連盟 (UAAA) 理事会 5/21 (月) ~24 (金) カザフスタン/アロ

マトイ

八木原会長、小野寺常務理事

③ アジア山岳連盟 (UAAA) 総会 10/8 (月) モンゴル

小野寺常務理事

- ④ 国際山岳連盟 (UIAA) 登山部会 4/21日(土)～22(日) ポルトガル/リスボン
11/10(土)～11(日) ハンガリー/ブタペスト
遭対委員会青山常任委員
- ⑤ 国際スポーツクライミング連盟 (IFSC) 総会 2019年3/16(日) 日本開催
- ⑥ 国際スキー連盟 (ISMF) 総会 ポーランド ザコパネ 6/15(金)～16(土)
開催
山岳スキー委員会 松澤常任委員

(3) 総務等

- ア) 平成30年度役員・会員名簿及び賛助会員名簿の作成・発行
- イ) 議事録の整備
- ウ) 山岳保険のPR (山岳雑誌広告、登山月報広告、マスコミ各社他)
- エ) NF体制の改革を図り、その一環として人員増など事務局体制の強化を行った。
- オ) 組織充実強化のための方策検討
- カ) 審判員、ルートセッター等資格登録のデータベース化を行った。

(4) 財政等

- ア) 財源の確保
 - ① ロイヤリティー収入源の具体策を検討
 - ・スポーツクライミングの写真使用料収入 (アフロとの契約) ¥2,701,850.
 - ・スポーツクライミングの安全確保を前提とした施設・用具等の安全基準の検討
- イ) 外部資金の導入
 - ① グローバル・パートナーの獲得(2社)
 - ② 競技関係の協賛企業の獲得(11社)
 - ③ 創立60周年記念事業募金活動
3月31日現在、298口、1,490,000円
- ウ) 常務理事会において毎月の収支決算の報告
- エ) 国民スポーツ登山振興基金の管理
- オ) 山岳共済会 (事務センター) の運営管理・山岳共済会会計
- カ) 監事監査 期末監査：5/10(木)～11(金)、中間監査：10/23(火)を実施
- キ) 中間決算と補正予算について
11月に中間決算、その後2月に第3次補正予算
- ク) 平成31年度予算案の作成 31年1月
- ケ) 10/29～30に税務調査が入り源泉所得税の指導があり、申告内容の修正を行っ

た。

以上

